



移住者名	長谷川 夫妻
都道府県	長崎県 小値賀町
移住先	東京都⇒小値賀町
移住年	2017年
職業	会社員⇒小値賀町役場（東京の会社から出向）
家族構成	夫婦2人
移住形態	1ターン

Q. 移住したきっかけは？

毎日遅くに帰って、ご飯をコンビニに頼る都会の生活に違和感を感じるようになりました。極端な話（というかありえない話）ですが、もしコンビニが無くなったら、僕らの生活はどうなるんだろうと時々思うのです。それから、田舎への移住を意識し始めました。海が近い田舎、山の中の田舎、いろんな田舎に夫婦二人で訪れるようになり、僕の生まれ故郷の隣島である小値賀島と出会いました。初めて小値賀島を訪れたとき、宿泊は普通のご家庭に泊まる民泊制度を使いました。そこでお世話になったご夫婦（今では僕たちの第二のお父さんとお母さん）の暮らしぶりに感銘を受けました。「いつか僕たちもこんな夫婦のように暮らしたい！」と尊敬するようになりました。それから、島の漁師さんたちに美味しいお魚や貝（なんとアワビ！）を御馳走になり、こんな素敵なおもてなしの心を持つ島の漁師さんたちが大好きになりました。「この人たちの近くで暮らしたい！」という想いに至り、小値賀島へ移住しました。

Q. 移住の際不安に思ったことは？

移住の際に不安だったことは特にありません。ワクワクしかなかったです。仕事は、総務省の「地域おこし企業人」という制度を使って、東京の会社から小値賀町役場へ出向することが決まっていました。もちろん、制度の期限が来れば、そこからは自分で稼いで生計を立てなければなりません。その前の猶予期間（チャンス）を与えて頂いており、あとは必死にやるだけだと思っていました。また、僕たちの移住を応援してくれる友人がたくさんいたのも心強かったです。移住の直前には、いろんな友人に力強く見送って頂きました。情けない話ですが、本当に困った時は、みんなに頼ろうと思っています。

Q. 移住して良かったことは？

自分の時間を持つことができることです。都会での生活は、お風呂に入っている時も、寝る前も、起きた直後も仕事のことばかり考えていました。おかげで白髪が増えました。移住してからは、できるだけ仕事以外の時間を持つように心がけています。畑仕事をしたり、読書したり、ゲームしたり、ぼーっとしたりしてます。また、本業についても自分が心の底から楽しいと思える仕事に従事させて頂いており、ずっと自分のために時間を使っている感覚です。いつかは、仕事と趣味の境目がなくなるぐらいになったらいいなと思っています。ずっと仕事をしていても、ストレス溜まらないというレベルまで持っていけたら最強です。



Q. 移住を考えている方へメッセージ

何かに理由を付けて移住を躊躇している方は、たぶん本気で移住したいと思っていないと思います。例えば、「貯金がたまったら」と考えている方は、移住したい気持ちより、お金に対する不安の方が勝っているからで、移住するという選択肢が最重要ではないということです。僕たちもそうでした。でも、ある時その優先順位がひっくり返り、貯金0円でも行く方法を考えました。自分たちがやりたいことをベースに事業計画書をつくり、諸先輩に時間をつくってもらい相談し、会社の上司を説得し、小値賀町役場に「僕を雇ってください！」と突撃訪問し、今の職場を手に入れました。お金に対する不安がなくなったからという見方もできますが、今の職を手に入れたのは、ほかの誰でもない僕自身が必死に行動したからだと言えます。本気で移住したいと思ったら、どんなに無謀な行動でも、はたまた、誰に何と思われようが、身体が勝手に動くものです。今すぐ移住できない理由は何なのか、自分の心に問うてみては如何でしょうか。